

# 議会広報

# しんぶん



PHOTO 6月30日・士別ビートまつり (上)  
岩尾内湖水まつり (下)

**No. 54**  
**2019. 8**

- 14 連載企画  
わたしから議会へ
- 13 編集後記
- 13 常任委員会審査報告
- 3 一般質問 (10人)
- 2 第2回定例会





6月7日から21日の日程で

第2回定例会が開かれました。会議では本市の出資団体である「土別市農畜産物加工(株)」「(株)翠月」「羊と雲の丘観光(株)」「まちづくり土別(株)」の経営状況報告がされました。

また、市立病院については診療単価の減少に伴い医業収益は前年比2・1%減となりましたが、診療材料費の減少や費用の圧縮などにより、経営改革プランに基づく一般会計からの繰り入れを含めて、約1億5千万円の純利益となる見込みとのことでした。

その他、条例の制定や一部改正、財産の取得について、一般会計補正予算などを、原案のとおり可決しました。

## 補正予算の主な内訳

○予防接種事業費  
(緊急風しん抗体検査)

・予防接種  
【267万円】



新たに羊舎が建設される予定地

○清掃車両センター

整備事業費

(移転に伴う)

施設改修の各経費

【882万円】

○めん羊振興事業費

(新規めん羊生産者の)

基盤整備に対する補助金

【補助先 土別三協(株)】

【550万円】

○畜産・酪農収益力強化

整備等特別対策事業費

(新規養豚業者の)

基盤整備に対する補助金

【補助先

(株)ドリームグラウンド】

【4億7534万円】

その他を合わせて、今回の補正額は5億5002万円です。

## 議案に対する主な質疑

※抜粋。詳細は録画中継を。

【議案54】土別市一般会計補正予算(森林整備基金積立金について)

国 森林環境税と森林環境譲与税の概要については。

答 森林環境税はR6年度から国民1人1000円を課するもので、その収入に相当する額を森林環境譲与税として市町村及び都道府県に対して譲与するものだ。

国 先んじて譲与税がくるというもののようだが、1250万円の積算の根拠は。

答 譲与税の配分額の算出方法については、各市町村の私有林の人工林面積、森林就労者数、総人口、行政面積に対する森林面積率を、国が定めた基準に基づき算出した額となっている。

国 本市のように森林の占める割合が高い方が積算額が高くなるという認識で良いか。

答 そのとおりだ。

【議案60】土別市一般会計補正予算(めん羊振興事業費について)

答 渡 事業費550万円の内訳は、羊舎の整備経費が2分の1補助で限度額150万円、車

両取得経費が2分の1補助で限度額150万円、めん羊の導入経費が3分の2の補助で限度額250万円だ。

渡 工事概要と、めん羊生産事業者の事業概要については。

答 羊舎整備は、238平方メートルの羊舎を建築予定だ。事業費は約2000万円だ。めん羊の導入については50頭で経費は380万円の予定だ。

## 可決された意見書

- ① 新たな過疎対策法の制定に関する意見書
- ② 2020年度地方財政の充実・強化を求める意見書
- ③ 「子どもの貧困」解消など教育予算確保・拡充と就学保障義務教育費国庫負担制度堅持・負担率2分の1への還元、教職員の超勤・多忙化解消・「30人以下学級」の実現に向けた意見書
- ④ 子どもに係る国民健康保険均等割保険料の負担軽減策を求める意見書
- ⑤ 「これからの高校づくりに関する指針」を見直し、機械的な高校統廃合を行わないことを求める意見書
- ⑥ 特別支援学校の設置基準の策定及び特別支援学級の学級編制標準の改善を求める意見書
- ⑦ 日米貿易協定交渉から日本の農業・農村を守る要望意見書

駅前広場と（仮称）まちなか交流プラザ  
街路樹と公園の維持管理



佐藤 正議員  
(日本共産党)



録画中継

駅前広場の整備の考え方

問 今までいろいろ論議されてきたと思うが、市としてもまだ方針が定まっていないように思えるが。

答 今年度からスタートした土別市都市計画マスタープランでは「気軽に出かけ多世代が交流できるまちなかづくり」を指し「（仮称）まちなか交流プラザの整備」や「JR土別駅周辺の交通結節機能の強化」を個別方針の一つとした。

この方針に基づき、駅前広場の整備については引き続きJR北海道を初め、バスやハイヤー事業者、商工会議所などと協議を行いながら、交通の結節点として利用者の利便性向上や駅舎

との段差を解消するバリアフリー化を目指すなど、JR土別駅舎とあわせ改修計画の策定を進める。

まちなか賑わい拠点の位置づけ

問（仮称）まちなか交流プラザに賑わいをつくるには、駅の交通の結節点は欠かせないものと思うが。

答 暮らしやすく人の顔が見えるまちなかの空間づくりに向け、「土別市まちなか未来計画」を策定中だ。この計画では、土別駅舎や（仮称）まちなか交流プラザ、生涯学習センターいぶき、ぷらっと、いきいき健康センターなどを有機的に一体整備し周遊性を高めることで、地域に「集い」や「賑わい」を創出することを目指している。

街路樹の維持管理について

問 歩道につくられている植え込みには、街路樹が植えられ季節

感や景観のある自然環境が市民に安らぎと潤いを与えてくれていると思われる。

緑による街づくりにおいて大切なのは、緑を広めることはもちろんのこと、適切に維持管理することだ。枯れた街路樹がそのまま放置されていたり雑草が生い茂って目につくが。

答 街路樹の維持管理は、月2回のパトロールを行い、枝折れや落ち葉、樹木の成長に伴う電線への接触、信号、標識の視認性の確保や通行の支障の有無、倒木の危険性などを調査し、その結果とあわせて市民からの相談や要請に応じ必要な剪定や伐採を行っている。

また、通行の支障になる枝については即時対応し、降雪期間に折れた枝などの処理は雪解け後に行い、落ち葉などの清掃を春と秋で2回、道路の雑草処理及び公園の草刈りを4月中旬から11月末までの期間に2回実施し、緑の景観を保つよう努めている。

ふれあいの道公園の段差解消

問 1区画ごとに車道におりなく

ても真つすぐ通れるよう、縁石を低くすることはできないか。

答 地域からも要望が出ているため、旭川方面公安委員会へ相談を行った経緯があり「交通量が少なく信号機を設置しない交差点であること」「交差点内で車両がふくそうすること」「遊歩道敷地幅が狭く、中央に横断歩道を設置した場合に車両及び歩行者双方に危険が伴うこと」から歩行者の交差点横断を認めることはできないと判断が示され交差点を直進して横断するため整備は困難だと考えている。



ふれあいの道公園の段差

## 財政健全化の取り組みについて 市立病院の経営概況と常勤医師の確保は



録画中継



大西 陽議員  
(高志会)

財政及び組織機構について

**問 「行財政運営戦略」の歳入確保と歳出改革の実施状況は。**

**答** 歳入確保に関連する取り組みの「地方創生の推進による地域の活性化」については、企業誘致に向けて、自動車やIT関連企業を中心に自動走行試験研究などの提案活動や「特定遊休財産」として旧中多寄小学校など建物4件、土地6筆の公募を開始している。

また、新たに設立された畜産事業者が西土別町で養豚事業を実施するほか、サフオークめん羊の飼養の新規法人の参入が決定したところだ。

次に歳出改革の取り組みでは事務事業の最適化を図り、改善見直しを行い、所管する担当課

自らの事業選定と総務部において意見集約し、来年度予算に向けた調整を実施していく予定だ。「職員数の適正化、機構改革による人件費の抑制」については行財政運営戦略実施計画に掲げた考え方を基本に職員数管理に努める。

組織体制及び機構改革については、昨年度実施のスタッフ制から係制への見直しに加え、4月に機構改革を実施したところだ。

また「時間外勤務縮減プログラム」「会議改革ルール」などについても引き続き実施しており、業務プロセスの改革と合わせた総人件費の縮減を図る。

(仮称) まちなか交流プラザについて

**問** 運営を担う「まちづくり士別(株)」に対して人的及び物的

支援を含めどのように関わっていくのか。市の役割をどのように捉えているのか。

**答** この施設は公共的な役割も兼ね備えている。

観光イベントや、1市3町着地型観光の取り組みなどの情報発信を行う「インフォメーション機能」や「市民の憩いの場」と公共交通の結節点機能としてのバスの待合所などの管理運営にかかる経費は市の負担としたところだ。

また、当施設に市職員を配置常駐し「情報発信・窓口機能」について観光協会との連携強化により、観光情報のPRや観光行政の一層の取り組み強化が可能だ。

「(仮称) まちなか交流プラザ」が将来的に持続可能な運営を目指して「まちなかプロジェクト」で協議を進めており、中心市街地の活性化、賑わいづくり、魅力ある施設となるよう市としても鋭意努力する。

市立病院の経営概況について

**問** 5月末の入院、外来患者数と前年同月比及び収益的収支の前年同月比は。

**答** 入院患者数は1日平均109・5人で前年同月比10・1人の減、外来患者数は1日平均441・

4人で前年同月比14・6人の減となっている。

収益的収支では前年同月比で入院収益で約3100万円の減、外来収益では200万円の増となっている。

費用については診療材料費の減少などから約450万円の減となっているが、収支差し引きでは約2500万円収支が悪化している。

**問** 医師就業支度金貸付条例施行後の取り組みは。

**答** 一人でも多くの常勤医師を確保することが病院にとって最大の課題となっており、現在、本州在住の医師から当院での勤務に前向きな回答を得ている。



市立病院は常勤医師の確保が課題

## 本市の防災・減災施策は 家庭ごみ有料化について



谷 守議員  
(公生クラブ)



録画中継

洪水ハザードマップについて

**問** 4月に全戸配布されたが、作成の経緯や内容などは。

**答** 今回配布した洪水ハザードマップは、水防法の改正により、千年に一度の大雨を想定した天塩川などの洪水浸水想定区域の見直しと、北海道管理河川の洪水氾濫危険区域を加えて、新たに指定された土砂災害警戒区域等も反映して作成した。そのほか、避難所の一覧や災害時の活用情報、市民が取るべき行動なども掲載した。

土別市災害時備蓄計画について

**問** この計画における災害時に備蓄する食料のうち、乳幼児などのために粉ミルクが備蓄され

ているが、お湯の確保が難しい災害時でも常温でそのまま飲ませることができる液体ミルクの活用が、近年他自治体でも始まっているが。

**答** 粉ミルクは昨年の12月に大型缶より一回で飲み切れるスティックタイプに変更した。今後は液体ミルクの有効性も研究し検討課題とする。

**問** 備蓄食料の賞味期限を過ぎた取り扱いは。

**答** 賞味期限が1年を切ったものは、自主防災組織による防災訓練や学校における避難訓練などで配布をしたり、自治会研修会などでも非常食として提供した。今後においても、備蓄食料を適切に管理し防災意識高揚への資源として活用する。

円滑な実施に向けた  
今後の取り組み策は

**問** 家庭ごみ有料化に向けた市民周知はどう進んでいるか。

**答** これまで、各自治会を対象と

した地域政策懇談会や老人クラブなどの各種団体に説明を行った。今後もあらゆる機会を活用して説明を行い、より多くの市民理解を得るよう努める。

このほか、広報紙での特集掲載やホームページ等の活用など多様な啓発活動により市民周知を図る。

**問** 不法投棄や不適正排出がこれまで以上に増えることが予想されるが、その対策は。

**答** 不法投棄対策については、看板の設置や監視カメラの増設を行い、不法投棄の防止に努める。また現在行っているパトロールを継続していく中で、警察などの関係機関と連絡を密にしていきその防止に努める。

指定袋に入れられていない等の不適正排出については、口頭での説明やお知らせシールを貼るなどきめ細かな対応を行いながら不適正排出を減らす。

**問** 今回の有料化で本市の収入となる手数料の見込み額は。

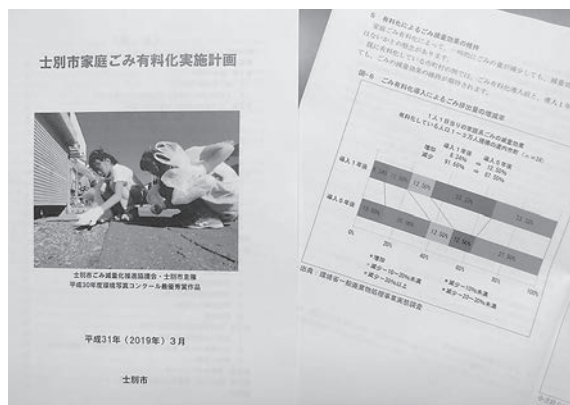
**答** 市民が指定ごみ袋を購入することにより、廃棄物処理手数料額は、年間で約6500万円を見込んでおり、袋製作費などの経費を差し引くと約4200万円程度と見込んでいる。

**問** 指定ごみ袋の作製業者や販売店などの進捗状況は。

**答** 作製業者は指名競争入札で5月に決まったところであり、8月中の納品に向け作製作業を進めている。

指定袋の販売店については、既に店舗向け説明会を終え、取り扱いを希望する事業者の申請を今後受付し、9月1日の店頭販売に向け広報紙等を通じて市民周知に努める。

また、指定袋の管理・保管体制については、保管は土別地方卸売市場へ移転する清掃車両センターで保管し、受付と配送は環境センターが行う予定だ。



土別市家庭ごみ有料化実施計画

## 「福祉灯油」とプレミアム商品券 市ホームページ（HP）の管理徹底を



録画中継



荅口千笑議員  
（公生クラブ）

配慮を要する助成事業について

問 昨年度実施された「福祉灯油」

の、該当世帯に対する申請率は、ひとり親世帯の申請率が低かったようだが、その要因をどのように捉えているか。

答 高齢者世帯98・6%、障がい者世帯76%、ひとり親世帯61・2%、生活保護世帯89%であった。

ひとり親世帯の交付率の低さについては、3年ぶりの事業であったことがひとつの要因かと思われる。

問 福祉灯油の制度を「冬の生活応援券」等、別の名称に置き換えている市町村もある。申請から利用に至るまでの過程において、対象者が隠すことのないよう、制度そのものを転換して

いく必要があると考えるが。

答 支援が必要な世帯へ充分に行き渡るよう、事業名や実施方法、周知方法等、調査研究する。

問 10月実施予定の「プレミアム商品券」について、対象を限定していることによる利用のしづらさを軽減する措置については、どのように考えているか。

答 現段階での事業概要は、実施体制については申請から商品券の販売までを、本市が直営で実施する。

申請の際には、郵送による受付を可能とする等、市役所に足を運ばなくても手続きが済むよう検討している。

対象者の要件が特定されない方法として、子育て世帯向けと非課税者向けの商品券を統一して作成することが最良の方法と考えているが、引き続き検討を重ねながら準備を進める。

ホームページの運用について

問 迅速な情報発信と更新が行え

ていない現状を、遺憾に思っている。4月に開始された産後ケア事業に関しては、登録日が5月30日付であった。掲載が遅れたのはなぜか。

答 確実に情報が伝わることを念頭に、個別案内の事務等を優先したため、HPへの整備事務が遅れた。

問 「羊と雲の丘観光(株)」など、外部リンク先へのリンク切れが見られる箇所がある。管理十分ではないか。

答 該当先が委託していたHPの管理会社が管理業務から撤退した。新たな管理会社と契約ができていないため、ウェブ上にリンク先のHPが存在していない。リニューアルも含め、検討しているとの報告を受けている。

リンク切れに対しては、リンクを表示しないことで対応した。改めて各部署で管理しているページを見直すよう通知を行い、正確な情報発信を職員に徹底する。

公園について

問 正式名称の周知という観点から、各公園へ園名板の設置と市

HPへの一覧の掲載が必要と考えるが。

答 正式名称に加えて、通称や愛称等を含めた園名板を設置できるように検討する。

問 利用度の高い公園については、時計の設置が必要ではないか。

答 自治会等の意見や要望により設置してきた過去がある。今年度は遊具の更新を行う「あけぼの公園」に設置を決定した。現在5カ所の公園で時計を整備し設置されていない公園は23カ所だ。今後も利用者の状況を把握することに努め、設置の必要性を検討する。



時計が設置される予定のあけぼの公園

## 空き家解体費補助制度の創設について 路線バス運行補助の見直しは



録画中継



西川 剛議員  
(民政クラブ)

空き家解体により  
周辺の生活環境維持へ

周辺の生活環境維持へ

**問** H27年4月施行の「空家等対策の推進に関する特別措置法」に基づく取り組みに必要な協議会設置と空き家対策計画の策定が進んでいない。本年4月には組織の見直しも行われ、空き家対策は創生戦略課が担当となったが。

**答** 空き家計画の策定に向け、法に基づいた協議会設置に関する条例制定に向け検討する。また、計画策定に向けては、危険建物である特定空き家の判断基準、行政代執行による取り壊し費用の回収方法など調査、研究する。

**問** 本市における危険建物の件数と建築基準法など現行法に基づく指導状況は。

**答** 危険建物は14件だ。H26年度から5カ年間の指導件数は42件であり、解体等による危険な状態から改善したのは24件、それ以外は「所有者が遠方で対応が困難」「所有者が解体費の捻出ができない」との理由で改善が進んでいない状況だ。

**問** 危険な状態、景観を著しく阻害している建物は、近隣住民にとって日々の生活における大きな課題だ。建物が周辺に大きな影響を与える前に空き家解体が進むよう、解体費用に対する補助制度の創設を求める。

**答** 建物除却後の土地に、投雪を認めてくれれば補助率をかさ上げするなど補助制度により危険建物の除却が進んでいけば、周辺において迷惑な建物が近隣住民の暮らしにとって役立つ土地になるといった効果も期待できるのではないかと。

**答** 空き家については、所有者が適切に維持管理することが原則だが、危険な建物として放置された場合、近隣住民や地域に与える影響は大きい。空き家の解

消については、市民の安心・安全な暮らしを確保するとともに、新たな土地の活用や住宅建設などの相乗効果も見込まれることから、補助制度について検討する。

敬老バス乗車証交付事業見直しによる影響は

**問** 本年4月に見直された、敬老バス乗車証交付事業についての実績は。

**答** 乗車証登録者は3203人でそのうち対象年齢を拡大した70歳から73歳は220人だ。延べ乗車数は前年同月と比較していずれも約8割程度だ。

**問** 高齢者の外出機会は減少してないのか。

**答** いきいき健康センターなど公共施設の利用状況に大きな変化はないことから、乗車数の減が外出機会の減とは考えていない。

**問** バス事業者への影響額は。

**答** 年間を通して、この2カ月と同程度の乗車数で推移すれば、委託料は約1300万円の減、運賃収入を含めた事業収入では約600万円の減と見込まれる。

**問** 路線バス事業は事業者にとつては赤字部門であり、この間、

市としても補助金で支援している状況だ。事業見直しにより、さらに赤字が拡大となれば、事業者の経営体力を益々落としていく懸念がある。補助金算定基準の見直しを含む検討が必要ではないか。

**答** バス路線だけではなく「地域公共交通網形成計画」を基本とし、総合的な公共交通体系の確立に向けた支援制度の構築を行う。

**問** スクールバス対応による路線の見直しなど、市が進める地域公共交通網の変更に伴って、バス事業者が協力しているという点も認識すべきでは。

**答** 趣旨については、承る。



市民の足を守る土別軌道(株)は創業100年

持続可能なまちづくりに向けて  
地域で支える高校のあり方は



渡辺英次議員  
(公生クラブ)



録画中継

持続可能な開発目標  
(SDGs)の取り組みを

問 SDGs(※1)を推進する

ために「北海道SDGs推進ネットワーク」が設立され、本市も参加しているが、そこでの主な取り組みは。

答 情報発信や共有、意見交換、そして普及啓発セミナーの開催などだ。

問 本市のまちづくり総合計画やその他の計画、各種事業はSDGsに係わるものも多いと考え

答 そのとおりだ。  
問 それではSDGsを推進することが、今後のまちづくりに大きく関与するのでは。

答 しかし、一方では人口減少や少子高齢化、企業誘致などの課

題もあるため、まずは総合計画を着実に進め、現在策定中の次期総合戦略の中でSDGsの取り組みについての模索をする。

問 SDGsを推進するためには行政だけではなく、企業や市民への周知が必要だが。

答 次期総合戦略の中で、市民に見えるような工夫をする。

※1 2015年の国連でのサミットで採択された「誰一人取り残さない」ことを目指した、持続可能な未来へ向けた目標と指針。

学校への支援拡大を

問 「士別中学校サポーターズ倶楽部」という支援金を募る団体が設立されるなど、中学校部活動にかかる費用捻出が課題となっている。現在の市の各種補助制度の見直しを。

答 部活動に所属していない生徒との公平性の観点から現状の制度内容としているが、相互の関

係性も含め、総合的に検証を進める。

問 翔雲高校の存続は、本市の将来にとって重要だ。維持存続させるためには行政の支援が必要と考えるが。

答 現在、本市在住の生徒を対象に「高等学校バス通学費補助」を実施し、また学校祭等においての連携協力などもしている。

問 本市の児童生徒数の推移を考察すると、これまでのように本市の生徒数だけでは維持は不可能だ。他の地区からも受け入れがある。そういった部分での新たな行政支援の考えは。

答 H30年第4回定例会の答弁で話したとおり、下宿については各所で受け入れについての相談をしており、今後も引き続き受け入れをしてもらえるところを探していく。

問 人口規模がほぼ同じ遠軽町ではH27年10月から「遠軽高等学校通学者等助成金事業」を独自財源で施行している。これは遠軽地区以外の生徒を対象にした助成だ。その背景には本市同様生徒数の減少で、学校の存続を危惧した行政側が、遠軽地区以外からの生徒数確保のために提

案した事業だ。現在は地区以外からの生徒数が徐々に増加している。本市においても、このような先を見据えた政治的判断が必要では。

答 翔雲高校も東高校も、本市にとっては重要な学校であり、下宿等においても共通の課題と認識している。

遠軽町のように民と官の連携があつてこそ成果につながるものと考ええる。民間の協力を得ながら、行政として通学費や下宿の費用の一部をどのように支援できるかが重要だと考えている。そう遅くない段階で方向性を示す。

6 遠軽高等学校通学者等助成金	1,686 万円
【総務部企画課】	財源の内訳 町の負担 全額
生徒を確保するため、遠軽地区（遠軽町、湧別町、佐呂間町）以外から遠軽高等学校に通学する生徒の通学、下宿等の費用を助成します。	
※2019年度 遠軽町予算 抜粋	

まちをあげて高校存続へ取組む遠軽町



## 本市農業の将来展望について JR支援対策と将来の見通しについて



録画中継



丹 正臣議員  
(公生クラブ)

### 大豆栽培の推奨を

**問** 本市農業は、水稻・畑作・酪農畜産と多くの品目が栽培され本市経済をけん引する産業として発展してきたが、現状では農家戸数や農業人口の減少により、大きな不安の中で大規模経営が一層進んでいる。

その中、特化すべき作物の創出が必要であり、その品目として大豆栽培を推奨することによって、その支援策と6次化の推進や、大豆の大型乾燥施設などをつくっては。

**答** 安全・安心で収益性の高い魅力ある農業の確立として、作物の品質、生産性向上を図るため輪作体系の確保により近年国産大豆の需要が増加傾向だ。

本市の大豆作付面積は、10年前の作付面積と比較すると1000ヘクタール増加しており、また本年2月に種苗法による新たな品種登録となった「つくも4号」においては、現在納豆や枝豆が商品化されており、4月からは加工適性を見極めながら「みそ」を試験販売、今後は「しろうゆ」についても販売する予定だ。

**問** 生産施設の応援に向けて、JA北ひびきや関係自治体との協議は進んでいるのか。

**答** 生産施設の整備については、昨年JA、和寒町、剣淵町、本市の担当者レベルで開催している意見交換会において、広域穀類乾燥調整施設構想について協議し、施設整備にかかる経費や農業者の合意形成などが必要とされた。

また「JA北ひびき第6次地域農業振興計画」「JA中期経営計画」においても検討することとなっていることから、今後においても協議を継続する。



1000ヘクタールの面積拡大がなされた

### JRとの協議経過と今後は

**問** JRの支援対策の進み方と将来の見通しは。

**答** H28年11月、JR北海道が単独では維持困難な線区10路線13線区を発表し、うち宗谷本線の名寄から稚内を含む8線区が「黄色線区」に該当した。その後、沿線の協議会において持続的な鉄道網の確立に向けた協議が進められ、昨年7月には国からJR北海道に対して2年間で400億円台を支援する方針が示された。

また地域負担のあり方や将来鉄道ビジョンについて論議され、道や関係団体との連携により「北海道鉄道活性化協議会」が設立された。

道、市長会、町村会からも支援金が拠出される見込みで、北海道が1億4000万円、8線区協議会が6000万円と、来年度までの2年間に限った緊急的・臨時的な負担となる。宗谷本線沿線26自治体の負担額は、均等割を含め790万円となり、本市における負担額は70万円だ。JRの将来見通しについて、長大な路線を有するJRにおいて、将来にわたり公共交通として安全かつ持続的に維持するには自助努力による経営再生が不可欠だ。利用者や地域から信頼されるグループ経営を企業の理想像として黒字化を目指している。

今後も「宗谷本線活性化協議会」を核に鉄道の重要性を理解してもらうため、啓発活動を進めるとともに、利用促進の取り組みに参画する中で望ましい地域支援や地域交通のあり方などについて国・道へ要請する。

自転車観光できるまちに  
改元コストと年度表記について



録画中継



国忠 崇史 議員  
(無党派)

横断歩道は歩行者優先

問 警察庁は、信号のない横断歩道での歩行者優先徹底について昨年10月に通達を出したが。

答 北海道警からも同様の通達が出て、土別警察署も悪質な歩行者横断妨害への取締りを強化したところだ。

問 JAF（日本自動車連盟）は信号のない横断歩道での自動車一時停止率を調査しているが、昨年初めて都道府県別の結果を発表した。全国平均8・6%に対し、北海道の停止率はわずかに4・2%だが。

答 JAFは道内2か所の横断歩道でしか調査を行っていないから、実態を反映したものとは言えない。

問 道路交通法38条という一つの

法律なのに、地方ごとに解釈が違い、停止率に大きな差があるのは問題では。

答 交通安全啓発を行い、交通事故抑止に努める。

問 土別署が危険と認定した「東2条9丁目」の交差点は、右折車と直進車との衝突が多いとのことだ。保育園児の散歩列に同様の車が突っ込む死亡事故が滋賀県で起きたばかりだ。四方のうち半分にはガードレールが設置されていないが。

答 危険箇所を調査した上で安全対策を強化する。

サイクルツーリズムの振興を

問 自転車による観光がしやすいように自転車専用道などの環境を整備している市町村が周辺に増えているが。

答 本市は観光振興基本計画の中にスポーツツーリズムを盛り込んでおり、サイクリングも含まれる。

問 層雲峡地区ほかでされているように、車道へのペインティン

グで自転車走行帯を表記する考えは。

答 そういった環境整備については「ぐるっとライド」など各種サイクリングイベントの参加者にアンケートを取り、現状と課題を把握してから進める。

問 自転車を分解せずに載せられる「サイクルトレイン」の試みが模索されている。路線バスに自転車を積むこともできるので。「貨客混載」は実施中だから、ハードルは低いのでは。

答 可能性について検討する。

問 土別市サイクリングターミナルの本来の目的は、自転車観光の拠点として期待できるか。

答 青少年の健全育成とスポーツの振興が当初の目的だ。今後は「(仮称)まちなか交流プラザ」との役割分担を考える。

改元10連休と市民生活は

問 平成から令和に改元したことで、ゴールデンウィークは10連休になった。本市職員の連休取得状況は。

答 非常勤職員を含め47%の職員が10連休を取得した。

問 改元関連のシステム改修費用は約210万円との見込みだつ

たが、実績はどのくらいか。約311万円となった。そのほかに、市立病院関係等で937万円を要した。

問 10連休明けの市役所や市立病院の各窓口混雑状況は。

答 通常の連休明けの混雑と大きく変化はなかった。

問 年度の表記がよくわからない。「平成最後の入学」と言われた子どもが後から「令和元年度入学者」になるわけで、平成31年度が後付けで元年度へと変わる理屈を、外国人や子どもにもわかりやすく説明できるのか。

答 西暦を用いたほうがわかりやすい場合などケースに応じた使い分けを行う。



横断歩道での停止率を上げよう

## インターネット通信の今後の展開は 携帯電話の市内不感地域への考え方は



録画中継



眞保 誠議員  
(公生クラブ)

ADSL受付終了に伴う本市の  
対応は

問 現在、市内には、光回線が提  
供されているエリアとADSL  
を利用しているエリアが存在し  
ているが、今後、NTTでは、  
R5年をもってADSLの終了  
予定がある。

まちづくり総合計画には、情  
報格差の解消と情報通信基盤の  
整備促進がうたわれており、高  
速かつ大容量のデータ通信が必  
要である現代社会の中、今後、  
どのような展開を考えているか。

答 光回線の提供エリアが拡大さ  
れている一方で、ADSL等を  
使用しなければならぬ、上土  
別、多寄、温根別地区等につい  
ては、ADSLの使用は継続さ  
れるが、情報サービスや災害時

の情報入手の不便さは認識して  
いる。

まちづくり総合計画で掲げて  
いる情報基盤の整備促進につい  
ては、通信業者に対して光回線  
サービスエリアの拡大を要望し  
ている。

あわせて、光回線未提供エリ  
アの自治会からは、エリア拡大  
の地域要望があることから、自  
治会に許可をもらい、要望して  
いる住民の名簿や居住地の資料  
を作成し、要望書を通信事業者  
に提出している。

加えて、要望を受けている地  
域だけでなく市内全域の通信改  
善を求めている。

今後も通信事業者と密に連絡  
を取り合い、情報共有や協議を  
進める。

市内不感地域での災害時、緊急  
時の現在の対応と今後の対策は

問 去る4月28日に幌加内町の霧  
立峠にて死亡交通事故があり、  
その現場に遭遇した。現場は、

携帯電話の不感地域であり、緊  
急車両等への連絡等、初動行為  
が遅れることを痛感した。

本市にも不感地域が広範囲に  
存在するが、現在、緊急時や災  
害時にはどのように対応してい  
るのか。

答 現在、本市の携帯電話通信エ  
リアは、全市的な整備に至って  
おらず、朝日地区の居住地域の  
一部や、交通量の少ない山間部  
エリアなどが不感地域だ。

こういった地域で事故が発生  
した場合の通報は、通信エリア  
まで移動しなければならぬ。

出動する消防においては、事  
前に不感地域を把握し、衛星電  
話の使用や、車両無線の中継な  
どにより、状況に合わせた緊急  
連絡体制を構築している。

また、大雨や台風で災害が予  
測される事態では、固定電話や  
同報系防災行政無線を用いるほ  
か、職員が居住先に訪問する際  
などには、移動系防災行政無線  
を活用するなど、非常時の体制  
整備に努めている。

問 基地局の設置や維持について  
は、国の補助金等の利用も検討  
してはと思うが、今後のエリア  
拡大への考え方は。

答 通信エリア拡大に向けては、  
これまで、不感の解消を通信業  
者に要請してきた。

通信業者によつては、住民か  
らの要請を第一とする場合もあ  
るため、使用者から事業者への  
要請にあたっての周知も行った。  
結果的に今回、朝日町茂志利地  
区に基地局建設が決定した。

補助金の活用は、本市、通信  
事業者共に費用の負担が生じる  
ので、居住者に合わせた中で事  
業者との協議や調整を図る必要  
がある。今後も継続して通信業  
者への要請を行い、通信基盤の  
整備促進を図る。



携帯電話の基地局

## てん菜振興と食育について 日向スキー場について



村上緑一議員  
(公生クラブ)



録画中継

スキー場の利用促進に向けて

**問** 第一リフトリニューアル2年目の利用状況は。

**答** 2カ年のリフト輸送延べ人員はH29年度18万1761人、30年度15万4834人となった。

この減少要因は、営業開始が前年度より遅く積雪不足で運休となった期間があったためだ。

**問** レンタルスキーの利用状況は。

**答** レンタルスキーなどの貸し出しは、H29年度308件、30年度286件となっており、利用者の多くは年末年始に帰省した人たちが観光モニターツアーで本市を訪れた台湾の人たちだ。

**問** 全国的にスキー授業が減少してきているが、本市のスキー授業は。

**答** スキー授業回数は減っており、冬期間の野外授業として日向スキー場を有効に活用している。

**問** 第一リフト降り場を広げて安全性を図っては。

**答** 降り場付近が込み合うことへの対策として、圧雪車で降り場付近を広げたり、安全バーの設

置や減速を促す旗を設置し、利用者には注意を呼びかけている。さらにスキー授業などで指導に当たる人の誘導のもと、一カ所に固まらない協力を得たり、リフトに乗る間隔をあけるなど指導を行っている。

**問** 高齢者の健康促進や日向スキー場利用者を増やすためにシルバー券を導入しては。

**答** シルバー料金については他市町村の状況など調査・研究を行うが、現行の料金体系は受益者負担と健康増進策の両面から見ても妥当な料金と考える。

てん菜振興について

**問** 士別開拓120年・日甜創立100年を期に今以上にてん菜振興を力強く進めては。

**答** 本市のてん菜振興はもとより「北海道てん菜振興自治体連絡協議会」を通じて機械化の推進や安定的な生産のため新品種開発、労働力の省力化への技術開発の支援、農業者の所得向上に必要な総合的な支援策、国及び北海道に対し提案活動を行い、てん菜作付け振興を推進する。

てん菜プロジェクトについて

**問** 上士別農業経営者連盟と日甜士別製糖所で神奈川県小学校へビートを送り、子どもたちの

食育学習を行っている。上士別小学校で初めてビートのシロップづくりを学習に取り入れたこの取り組みについての考えは。

**答** 上士別農業経営者連盟と士別製糖所の取り組みは大変意義深く、上士別小学校で行われた地域農家と連携した食育学習は、てん菜への理解がより一層深まるものだ。

**問** てん菜振興と食育を結び、ビートでのシロップづくりの取り組みを道内に発信しては。

**答** 北海道てん菜振興自治体連絡協議会の幹事会において、本市の取り組みを含め各自自治体と情報交換を行う。

**問** 上士別小学校でのビート学習を本市の教育に取り入れては。

**答** てん菜は過去に数校が栽培した経過があり、今年度は温根別小が栽培している。社会科副読本でもてん菜に関して掲載し、士別製糖所の見学会についても継続実施を予定している。



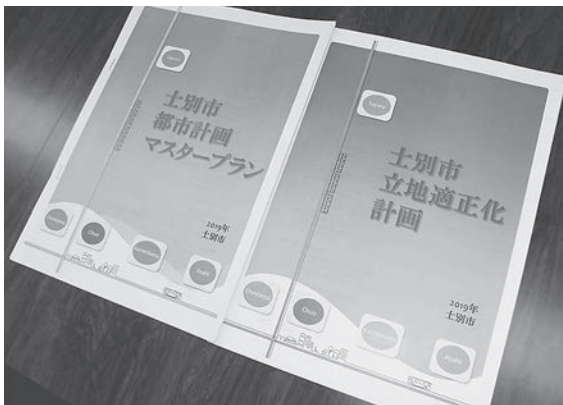
ビートのシロップづくり（上士別小）

## 総務産業常任委員会付託事件

平成31年第1回定例会において「土別市都市計画マスタープランの変更」について総務産業常任委員会に付託されました。

審査経過については、本案件が付託されて以降、本年5月10日及び5月31日の2回、委員会を招集して審査を行いました。

土別市都市計画マスタープランの変更は、立地適正化計画及び公共交通網形成計画の策定とあわせて見直しを行ったものであり、市街地中央への都市機能の集約化を明確に打ち出し、まちづくり総合計画における地区別計画と連動した、中央市街地と朝日・上士別・多寄・温根別の各地区とのネットワークを明確に位置づけ、市全体の将来ビジョンとして整理したものです。人口の減少に伴いまちの規模が徐々に縮小していく中、人口規模に見合ったコンパクトなまちづくりをより具体的に進めていくためには、必要な取り組みであると判断するところではあります。



都市計画マスタープランと立地適正化計画

まちなかの賑わいや魅力を創出し、市民が安全で安心な生活を送ることのできる有効な施策となるよう、また、市街地と各地区との持続可能なネットワークを形成できるように、計画の推進体制を充実し、人口・交通動態などの情勢を見極めたうえで進捗の評価・見直しを適切に行うことを強く望むところです。

審査結果については、原案のとおり可決すべきものと決定し、本会議においても原案のとおり可決されました。

### 編集後記

令和最初の第2回定例会も終わりました。初日には九十九大学大学院生が傍聴に来られ議場もいつもとは違った心地よい緊張感が漂っていました。

今年度から予算化されて、議会ICTが導入されます。今までの紙媒体からタブレットにかわります。使いこなせるようになるには何カ月かかるのか、今から心配しているところです。

皆様に分かりやすい議会広報を届けるため今後とも努力してまいります。

(佐藤)

委員長 国忠 崇史 副委員長 西川 剛  
委員 喜多 武彦 苔口 千笑 佐藤 正  
真保 誠 遠山 昭二 渡辺 英次

### 第3回定例会(予定)

8月30日 (初日/議案審議)

9月10日から12日 (一般質問)

9月13日 (最終日/議案審議)

※開始時刻はいずれも午前10時の予定です。

### 議会中継のご案内

インターネットから、議会中継を視聴することができます。

スマートフォンからも視聴できるようになりましたので、ぜひご覧下さい。

QRコードはこちら



議会当日は生中継を配信しています!!



川越 信子さん  
(75歳・無職)

―市議会を傍聴されたことはありますか。

1回だけ傍聴に行かせてもらいました。真剣に質疑が行われ、普段聞けないような話も聞けて勉強になりました。

議員さんは市民のためにいろいろな意見を言ってくれていると思いました。

―普段議員と話すことなどありますか。

普段身近にお話することはありません。市民の代表でありながら疎遠になりつつあります。

―ごみの有料化が始まりますが。

消費税も上がるし、上がるものばかりで年金生活者には大変です。もつ

と所得を増やさなければ購買力も上がらないし、ますます不況になるのではないのでしょうか。

―市政について何かありますか。

街の景観をよくしてほしいと思います。街路樹については、ぼうぼう伸び放題で街の景観を損ねているところもあります。ケアをしつかりする必要がありますか。

植え込みの管理も地域住民が高齢化して手入れする人も減ってきています。ちゃんと維持管理を市がやってほしいです。

帰りに庭園の花を見ていってと言われ、バラやサボテンの花が咲き乱れ、花好きの川越さんの手入れの行き届いた花ばなな目を奪われました。

管理の行き届いた景観のよい街に



## 連載 企画⑤ わたしから議会へ

(聞き手・佐藤 正)



川上 巖さん  
(76歳・無職)

―議会を傍聴されてどんな印象を持たれましたか。

議場に足を踏み入れ厳粛な感じを受けました。

昨年から九十九大学大学院生の課外学習の一環として傍聴に行かせてもらっています。また、意見交換会にも出させてもらい、いろいろ勉強になりました。

議員さんの傍聴者に対する姿勢についても興味深く拝見させてもらいました。

―今後に不安はありますか。

元気を保ちながら楽しく過ごしていきたいと思っ  
ていますが「衣・食・住・足(交通)」この一つでも欠けると、この地域には住めなくなってしまう

例えば、高齢者専用の住宅みたいなのがあればいいかもしれません。買い物難民、交通難民を解消してくれる一つの考え方だと思えます。

―議員に望むことは。

いろいろ望むことはありますが、個人的にああせいこうせいと言うのもどうかなあと思ひ、議員さんもそれぞれ勉強されていることが見えるのであえて言うことは考えていません。

地域としての要求は、地域担当職員と自治会役員で毎年要求しているところ

帰りに川上さんの趣味の一つである陶芸作品と窯入れを見せていただきました。



足(交通)の確保が欠かせない!